

【論文提出者】 社会文化科学教育部 人間・社会科学専攻 認知哲学・心理学領域  
氏名 新村 隆博

【論文題目】 保育における発達支援観とその関連要因、およびメンタルヘルスへの影響の検討

【授与する学位の種類】 博士（学術）

#### 【論文審査の結果の要旨】

新村隆博氏の博士論文「保育における発達支援観とその関連要因、およびメンタルヘルスへの影響の検討」は、保育園・幼稚園・認定こども園の保育者を対象に保育における発達支援観尺度の開発とその関連する要因やメンタルヘルスへの影響の解明、そして保育者の心理的健康向上のための本尺度の活用について検討した論文である。

近年の保育現場では、障害等の有無に関係なくすべての子どもを対象に多様な保育・教育ニーズを満たすことが求められている。一方で、子どもや保護者に対する支援の拡大に迫られ、また、発達障害傾向の子、いわゆる「気になる子」が増加しているといわれ大きな課題となっている。個別の発達過程や発達課題を踏まえた関わりが求められる現状において、保育における子どもの発達支援に対する認識が職務ストレスなどに関連していることが推察される。そこで、本研究では、保育における発達支援観を測定する尺度の開発、関連する要因やメンタルヘルスへの影響を解明することを目的としている。

研究方法は、インタビュー調査や質問紙調査など 3 段階を設定している。まず始めに研究 I-I では、保育園・幼稚園・認定こども園の保育者 11 名に半構造化インタビュー調査を行っている。研究 I-II では、研究 I-I で明らかとなった保育者の保育における子どもの発達支援の認識を基に尺度項目案を選定し、元保育園園長等との項目案の内容的妥当性の検討後、保育者 42 名を対象に予備調査を行っている。最終的に 21 項目が抽出され、Cronbach  $\alpha$  係数は 0.86 であり十分な内的整合性を示している。研究 I-III では、予備調査結果を踏まえて 513 名を対象に本調査を実施し、因子分析による項目の精選など尺度の妥当性・信頼性を検証している。ある一定の信頼性・妥当性のある尺度（2 因子構造）が開発されたが、考慮すべき限界が複数あったため、研究 I-III と同じデータを用いて因子構造と妥当性信頼性の再検討を行っている（研究 I-IV）。1 因子 11 項目からなる改訂版が作成され、確証的因子分析によって 2 つの因子構造を比較した結果、全体として 1 因子モデルの方がデータに対して良好な適合を示し適合度が高く、改訂版の Cronbach  $\alpha$  係数は原版と同様に高い内的整合性を示したことを報告している。

研究 II では、保育者 513 名を対象に保育者の属性や背景要因に焦点を当て、保育における発達支援観に影響を及ぼす要因について改訂版尺度を用いた多変量分散分析を行っている。その結果、保育における発達支援の困難感には保育者の所属（職種）や年代といった個人属性によって異なる傾向を示す可能性が示唆されている。

研究 III では、保育者 467 名を対象に保育における発達支援の困難感等の保育関連要因と特性的自己効力感等の個人属性要因が職務上のストレスに与える影響を明らかにするために重回帰分析等の統計学的分析を行っている。その結果、保育における発達支援やストレスの捉え方、自己効力感、および子育て経験等の個人属性が職務ストレスに幅広い影響を及ぼす可能性が示されている。

以上、保育における発達支援観とその要因の検討やストレスとの関連性についての尺度開発を行った本研究は、保育現場のストレス要因の解明に大きく貢献するものと思われる。また、すでに本研究に関連した学術論文が国際誌で 1 件（Psych, 2023）、国内誌で 2 件（熊本大学社会文化研究, 2023; 保

育文化研究, 2021) ほど採択され、国内学会での発表も行っている。また、今後、保育園や幼稚園などの保育現場への波及効果も大きいと予想される。以上のことから、本委員会は、本論文を博士論文として適格であると判定する。

#### **【最終試験の結果の要旨】**

最終試験は、令和5年12月26日(火)(11時30分から13時)に学位論文審査委員会委員4名の出席のもとでオンラインにて実施された。最初に本人から学位論文の概要に関する発表がなされた後、各審査委員との間で質疑応答が交わされた。いずれの審査委員の質疑に対しても、専門的な学識とデータに基づく適切な応答がなされた。

また、令和6年1月20日(土)(13時から14時)に開催された学位論文公開発表会においては、まず博士学位論文の主旨について発表が行われ、その後質疑が行われた。審査委員以外の出席者からの質疑に対しても適切かつ明快な応答がなされた。

以上から、当該論文の提出者である新村隆博氏は、その研究テーマ及び関連領域に関して優れた学識を有し、自立して研究を行う能力を十分に有すると確認できたため、審査委員会は、同氏に対して博士(学術)の学位を授与するに相応しいと判定するに至った。

#### **【審査委員会】**

主査 安村 明

委員 寺本 渉

委員 高岸 幸弘

委員 田中 朋弘